

地域密着プロ・クラブが市民の 「絆の結び目」として機能する内実とプロセス —岡山湯郷ベルがホームタウンに育んだものとは?—

高岡敦史*

抄録

プロ・スポーツが人と人のつながりを育み、地域活性化をもたらすという言説が認知されて久しいが、その内実が地域生活者の視点から理解されているわけではない。本研究は、地域における社会的ネットワークにおいてプロ・クラブはどのように意味づけられているのか、そして、プロ・クラブをめぐる他者とのつながりが地域生活にどのような影響を与えるのかという問いに回答しようとするものである。

そのために、岡山湯郷ベルをめぐる社会的ネットワークを把握し、各下位ネットワークにおけるプロ・クラブへの意味づけを理解するという課題を達成するための定性的研究と、岡山湯郷ベルをめぐる他者関係と地域生活への意識との影響関係を理解するための定量的研究を併用した。

岡山湯郷ベルをめぐる社会的ネットワークは、地縁系ネットワークと開放系ネットワークからなっており、地縁系ネットワークは6つの下位ネットワークによって構成されており、それらは参加者の生活の文脈を基盤にしてクラブに対してネットワーク固有の意味づけを行っていた。開放系ネットワークは2つの下位ネットワークによって構成されており、インターネット上のスピーディーな情報共有を実現しているとともに、持続的なネットワークの拡大可能性と非対面的関係から対面的関係への発展可能性を有していた。

岡山湯郷ベルをめぐる他者とのつながりと地域生活への意識との関係性については、特に、地域におけるファンとの交流機会と地域の他者とのつながりの豊かさや地域に対するポジティブな意識との間に相互依存関係があることが確認できた。

2つの研究の併用によって、社会的ネットワーク内での地域生活の文脈共有とクラブへの意味づけの共有が、プロ・クラブをめぐるネットワーク内交流を活性化し、それがさらにクラブへの意味づけと生活文脈の共有化を促進し、結果として人と人のつながりは強固になり、つながることに由来する幸福度や貢献意欲が高まり、さらに生活文脈の共有が進む、というスパイラルアップ・モデルが提起できた。

キーワード：プロ・クラブ，生活者，社会的ネットワーク，幸福度，地域に対する意識

* 岡山大学 スポーツ教育センター

〒701-8530 岡山県岡山市北区津島中 2-1-1

Facts and processes that community-based club to function as a "knot of bonds" of citizens

Atsushi Takaoka *

Abstract

Long time has passed since to be lectured discourse that professional sports grow bonds, and leads to the activation of community. But facts is that, not being understood from the perspective of ordinary citizen. This study is intended to answer the question of whether the grant and that professional sports is what means that what has been given in the social network in the region, and the question of whether relationship around the professional sports giving impacts on community life.

Therefore, in this study, we conducted a qualitative research to understand the meaning of social networks has given professional sports, and quantitative research to understand the impact of relationship around the professional sports has given to consciousness of community.

The major findings are summarized as follows. First, case of Yunogo Belle, social network is composed of a territorial network and an open network. In a territorial network, the members have found a unique meaning for the club built upon a network context of life of theirs. In an open network, the members have been achieved with speedy information sharing on the Internet, and have the potential to develop relationships face-to-face from non-face-to-face relationship and the possibility of sustained network expansion. Second, there is interdependence between Interactive relations between fans and Richness of relationship, positive consciousness to the communities.

In a network will be strengthened by sharing the context, it can be much higher similarity of meaning to the professional sports, and it can be richer relationship around the professional sports.

Key Words : Professional sports, citizen, social network, happiness,
consciousness of community

* Interactive Sport Education Center, Okayama university

〒701-8530 2-1-1 Tsushima-naka , Kita-ku , Okayama-city, Okayama, Japan

1. はじめに

スポーツが地域を活性化すると論じられるようになって久しい。地域密着を志向するプロ・スポーツクラブ（以下、プロ・クラブと略記する）の多くが、ホームタウンの活性化を自らの使命とうたっており、そのことに対する期待は行政や企業の支援を得られるほどに大きなものになりつつある。

一方で、地域活性化に関する言説は、ソーシャル・キャピタル論（パットナム,2006）の展開を基盤にしてきたが、東日本大震災以後、「絆」をキーワードとして人と人のつながりをより重要視するものになっている。

プロ・クラブが地域にもたらす社会的・経済的インパクトは、①社会資本の蓄積、②消費の誘導、③地域連帯感の向上、④都市イメージの向上が想定されている（原田,2005）。プロ・クラブのインパクトを、人と人のつながりという地域活性化の今日的視座から把握しようとするとき、社会関係資本の蓄積や地域連帯感の向上は重要になるだろう。そこで本研究では、プロ・クラブは地域において、どのような人と人のつながりを生み出すか？という問いを基盤にして研究を開始した。

これまでのわが国におけるプロ・クラブの存在価値や機能を地域との関係性の中で捉えようとする研究や論説は、経済的インパクトに着目したもの（古市・ブストス,2004、宮本ほか,2007、石坂・間野,2010、筒井,2012）や、地域愛着やコミュニティ形成等との関連性を理解しようとするものが多い（二宮,2010、二宮,2011、齋藤・川原,2012）。いずれにおいても、市民や地域生活に対するアプローチは「消費」という視点からのものである。

そのことに対するアンチテーゼとして、生活者（ファン、観戦経験のない近隣住民などを含むあらゆるステークホルダー）の視点や地域生活の豊かさという「生活」の視点からプロ・クラブの地域における存在の有り様を捉え直したとき、プロ・クラブが地域にもたらすインパクトは異なって見えてくるであろう。

「消費」から「生活」へ、という視点の転換に伴って、地域は、物理的空間ではなく、生活者が相互行為によって構成している言説空間、あるいは行為規範や信念が継承・創出される「場」と捉えられることになる。そして、プロ・クラブは、生活者によって意味づけられる対象であり、その存在は生活の文脈の中で社会的に構成されるものと捉えられる。

この基本的視座においては、プロ・クラブは地域において、どのような人と人のつながりを生み出すか？という問いは、地域における社会的ネットワークにおいてプロ・クラブはどのように意味づけられ

ているのか、そして、プロ・クラブをめぐる他者とのつながりが地域生活にどのような影響を与えるのか、と問い直される必要があるだろう。

2. 目的

地域における社会的ネットワークにおいてプロ・クラブはどのように意味づけられているのか、ということに回答するためには、プロ・クラブをめぐる成立している社会的ネットワークを可視的・構造的に理解し、ネットワーク参加者で共有しているプロ・クラブへの意味づけを理解する必要がある。そして、プロ・クラブをめぐる他者とのつながりが地域生活にどのような影響を与えるのか、ということに回答するためには、プロ・クラブをめぐる他者とのつながりの実態と、地域生活に対する意識を理解した上で、両者の影響関係を検討しなければならない。そこで以下の2つの研究課題を設定した。

課題1：岡山湯郷ベルをめぐる社会的ネットワークを把握し、各下位ネットワークにおけるプロ・クラブへの意味づけを理解する。

課題2：岡山湯郷ベルをめぐる他者関係と地域生活への意識との影響関係を理解する。

3. 方法

プロ・クラブの地域における存在性を理解するためには、地域に一定の認識可能性がある必要がある。ホームタウンが人口の多い都市部であったり、ステークホルダーが多様でありすぎるほどビッグ・クラブであったりすると、当該クラブをめぐる社会的ネットワークを認識することは困難になるし、地域生活の多様性は極大化してしまう。そこで、本研究では岡山県美作市美作地区（旧美作町）をホームタウンとする日本女子サッカーリーグ1部に所属の岡山湯郷ベルを対象にした。

各研究課題を達成するための方法は以下に述べる通りである。

1) 社会的ネットワークの可視化とプロ・クラブへの意味づけの理解（課題1）の方法

ネットワークを構成し、プロ・クラブへ意味づける主体としての市民の意味世界を理解しようとする本課題では、それらを要素還元したり、既存尺度を当てはめたりすることはできない。また、プロ・クラブが立地する地域特性や個人属性によって意味づけは極めて多様であり、全市民の意味世界を理解し切ることが不可能である。

そこで本研究では、岡山湯郷ベルをめぐる社会的ネットワークの中心に位置すると想定された人物3

名(①岡山湯郷ベル私設応援団の代表, ②別の私設応援団代表であり地域活動も行う会の会長, ③岡山湯郷ベル・ボランティア代表)を端緒とした雪だるま式サンプリングを用いてアクティブ・インタビューによる調査を行った。

雪だるま式サンプリングは, 最初の語り手によって次の語り手を紹介してもらったり, 語りの中に出てきた登場人物や語り手から得た情報をもとにインタビューに応じてくれそうな対象者や関係者に連絡・接触を試みたりする手法である。(桜井, 2002)対象者の意識的なつながりに依存して調査を展開することは, 同時に対象者を取り巻く社会的ネットワークを追いかけることになるだろう。調査が展開するにつれて社会的ネットワークの可視化が進むことになることと構想したのである。

アクティブ・インタビューは, 調査者からの質問に答える対象者を, 「経験内容の貯蔵庫」と捉えるのではなく, 相互行為としてのインタビューの過程で事実と経験に「建設的に何かを付け加えたり, 何かを取り去ったり, 変えたりする」(ホルスタイン・グブリアム, 2004, p.31)実践者と捉える構築主義的なインタビュー手法である。調査者(インタビュアー)は, 対象者との会話を通して様々な解釈の選択肢を浮かび上がるようにする。そのために, 対象者の経験に対してある方向を持った解釈を示唆したり, 経験間の結びつきを示唆したり, 対象者による意味づけの輪郭をなぞったり, それらを誘い出したりする。対象者の岡山湯郷ベルに対する意味づけは, それまで明示的に言語化していない事柄も含んでいることが想定される。アクティブ・インタビューを通して調査者と対象者が協同的に言語化を促進することで, 意味づけが理解できると考えた。

インタビューによって収集した音声データは, 書き起こし, その内容からネットワーク参加者の岡山湯郷ベルに対する意味づけを解釈し, ネットワークを理解しようとした。

2) 岡山湯郷ベルをめぐる他者関係と地域生活への意識との影響関係の理解(課題2)の方法

岡山湯郷ベルをめぐる他者関係や地域生活への意識は操作化が可能であり, 多量なデータを収集し, 影響関係を統計学的に理解することが可能である。そこで課題2は仮説検証型の定量的方法を用いた。

岡山湯郷ベルをめぐる他者関係は, ファンやボランティア, チーム関係者, 協賛企業関係者との交流や交流意欲として操作化した(「親族・知人に湯郷ベルのファンがおり, 頻繁に話をする」「親族・知人がファンクラブに加入しており, 頻繁に話をする」「親族・知人に湯郷ベルのボランティアがおり,

頻繁に話をする」「親族・知人に湯郷ベルのチーム関係者がおり, 頻繁に話をする」「親族・知人に湯郷ベルの協賛企業関係者がおり, 頻繁に話をする」)。また, 調査対象者の多くが岡山湯郷ベルのファンであるとは想定できないため, ファン同士の交流とファンクラブへの加入動機を別途変数として加えた(「私はファンクラブに入会しており, 活発に交流する仲間がいる」「ファンクラブに入会して, 友達の輪を広げたいと思っている」)。いずれも「とても当てはまる」から「全く当てはまらない」までの5段階で回答してもらった。

地域生活への意識は, 幸福度と地域に対する意識の2つの視点から操作化した。

幸福度は地域生活の豊かさを測定する尺度として様々に開発されている。それらはマクロ変数(地域変数)としての幸福度尺度とミクロ変数としての幸福度尺度(個人変数)に大分される。本課題は個人の意識を分析対象としているため, 市民調査における活用実績の豊富な荒川区自治総合研究所が開発した尺度を用い, 主観的幸福度(1項目:「私は幸せに生きている」), 暮らしの豊かさ(5項目:「私の体は健康だと感じる」「私の心は満たされていると感じる」「家族との関係は良好だ」「食生活に満足している」「私の生活は明るい」), 地域とのつながり(5項目:「近所づきあいは活発だ」「地域活動・行事によく参加している」「地域の人たちと交流する機会がよくある」「地域には頼れる人がいてくれる」「日常会話で地域のことがよく話題になる」), 生きがい(5項目:「人から頼りにされることがよくある」「地域には自分が活躍できる場がある」「地域に貢献できる機会がよくある」「私の余暇は充実している」「私には生きがいがある」)の4次元で幸福度を測定した。いずれも「とても当てはまる」から「全く当てはまらない」までの5段階で回答してもらった。

地域に対する意識は, 地域を美作市全域と日常生活圏に分け^{注1}, それらが住みやすくなってほしいという改善期待(「生活している地域にもっと住みやすくなってほしい」「美作市全体にもっと住みやすい市になってほしい」と, 住みやすくなるために貢献したいという改善意欲(「生活している地域がより住みやすくなるために貢献したい」「美作市全体が住みやすい市になるために貢献したい」という2次元で把握するとともに, 美作市民としての誇り(「美作市民であることを誇りに思う」)を加えて項目化し, いずれも「とても当てはまる」から「全く当てはまらない」までの5段階で回答してもらった。^{注2}

分析枠組みは, 岡山湯郷ベルをめぐる他者関係を

独立変数、幸福度と地域に対する意識を従属変数として構築した。(図1参照)

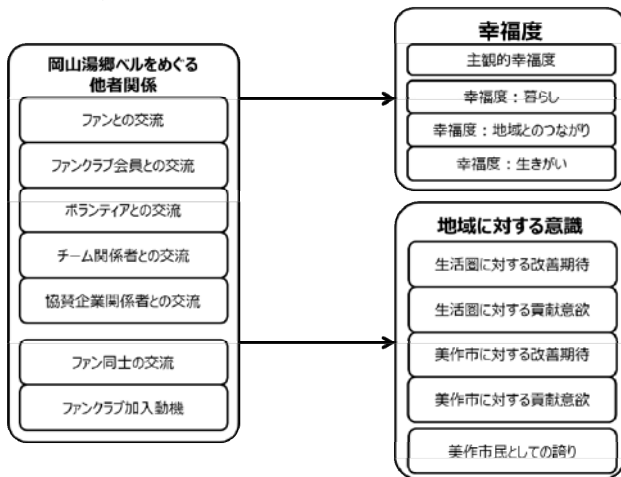


図1 分析枠組み

分析枠組みに内包される研究仮説は以下の2点である。

仮説1:岡山湯郷ベルをめぐる他者関係の豊かさは、幸福度を高める。

仮説2:岡山湯郷ベルをめぐる他者関係の豊かさは、地域に対する意識を高める。

質問紙は、筆者と美作市スポーツ振興課が作成した美作市民のスポーツライフを調査する「スポーツに関するアンケート」に本研究に必要な質問項目を加えた。調査対象者は20代から60代までを対象に、美作市の住民基本台帳を利用した層化無作為抽出法を用いて1,000名を抽出し、郵送法によって配布・回収した。

4. 結果及び考察

1) 岡山湯郷ベルをめぐる社会的ネットワーク

インタビューは、27名(個人に対するインタビュー22回、集団に対するインタビュー2回)に対して、計1,738分行った。(表1参照)

表1 インタビュー調査の概要

ID	インタビュー対象者	対象者の所属地域	調査日	時間(分)
1	私設応援団B会長	美作	2012/7/3	118
2	私設応援団A代表	美作	2012/7/6	67
3	ボランティア代表	美作	2012/7/8	33
4	ボランティア1	美作	2012/7/12	68
5	ボランティア2	美作	ID4と同時	—
6	私設応援団Aメンバー1	県内他市	2012/7/13	79
7	サポーター1	美作	2012/8/3	56
8	サポーター2	兵庫県	2012/8/3	93
9	ボランティア3・地元サッカークラブ監督	美作	2012/8/9	45
10	サポーター3	県内他市	2012/8/11	58
11	サポーター4	滋賀県	2012/9/2	59
12	ボランティア4・地元サッカークラブ・コーチ	美作	2012/9/4	48
13	サポーター5	美作	2012/9/19	54
14	サポーター6	兵庫県	2012/9/22	51
15	私設応援団B事務局	県内他市	2012/9/26	67
16	サポーター7	県内他市	2012/10/13	47
17	サポーター8	県内他市	2012/10/27	52
18	サポーター9	県内他市	2012/11/3	58
19	私設応援団Bメンバー	県内他市	2012/11/16	63
20	地元町内会メンバー1	美作・東浜地区	2012/11/21	116
21	地元町内会メンバー2	美作・東浜地区	2012/11/21	197
22	地元町内会メンバー3	美作・東浜地区	ID21と同時	—
23	地元町内会メンバー4	美作・東浜地区	ID21と同時	—
24	地元町内会メンバー5	美作・東浜地区	ID21と同時	—
25	地元町内会メンバー2	美作・東浜地区	2012/11/28	129
26	温泉街関係者・女将の会長	美作	2012/12/1	57
27	スポンサー企業関係者1	県内他市	2012/12/1	80
27	スポンサー企業関係者2	美作	2012/12/1	43
			合計時間	1738

その結果、岡山湯郷ベルをめぐる構成されている社会的ネットワークは、a) 地縁系ネットワークとb) 開放系ネットワークの2つに大分された。(図2参照)

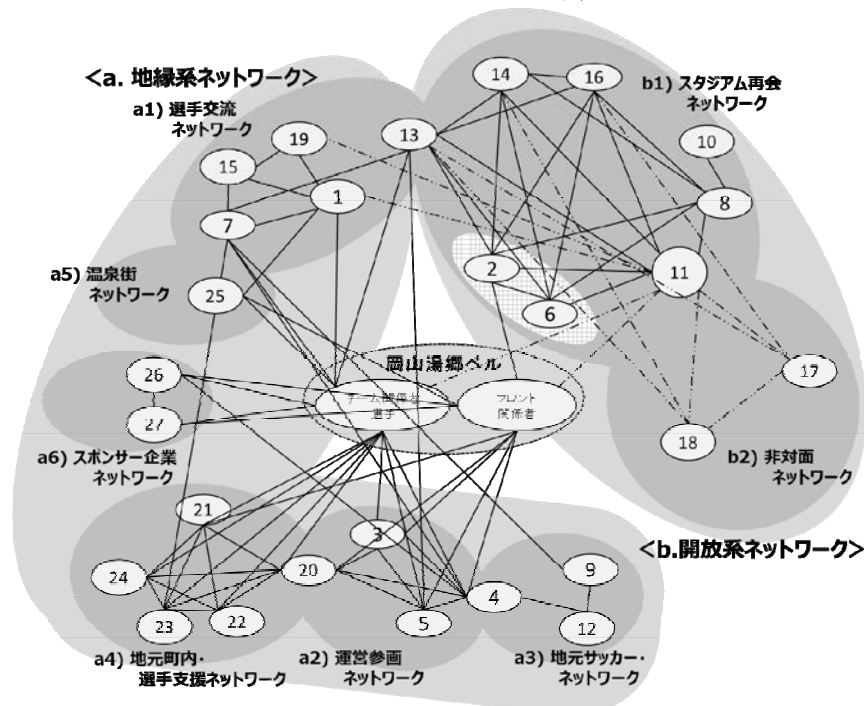


図2 岡山湯郷ベルをめぐる社会的ネットワーク

a) 地縁系ネットワーク

地縁系ネットワークは、旧美作町における地縁関係を基盤として構成されていた。その中には、以下の6つの下位ネットワークが含まれており、各下位ネットワークにおける岡山湯郷ベルに対する意味づけは以下の通りである。

- a1) 選手交流ネットワーク：プロ契約していない選手と職場や地域で出会い、日常的に交流するようになり、選手の個性を知ることによって熱心なサポーターになった人たちとそれに巻き込まれた人たちによって構成されている。当ネットワーク参加者は、生活圏としての職場・地域で特定選手とつながっているため、同僚あるいは同郷の民として選手を認識しており、岡山湯郷ベルを彼女らが情熱を注ぐ大切な夢の場として認識している。
- a2) 運営ボランティア・ネットワーク：岡山湯郷ベル創設期（2002年日韓W杯の際に旧美作町がスロベニア代表合宿地になったことを契機にした女子サッカー誘致の動き）からクラブに関わっている行政担当者や県・市サッカー協会関係者を結節点として構成されている。当ネットワーク参加者は、クラブを多方面からボランティアに支える仲間やチーム関係者とのスタジアム内外での交流に価値を見出しており、彼らにとって岡山湯郷ベルはクラブ支援者同士の交流の場である。
- a3) 地元サッカー・ネットワーク：岡山湯郷ベル創設以前から活動している地元サッカー関係者によって構成されている。当ネットワーク参加者は、旧美作町のサッカースクールやサッカークラブの活動の論理（地元サッカーの発展と活動場所の安定的確保）をベースにして岡山湯郷ベルに関わっている。彼らにとって岡山湯郷ベルは、地元サッカーにとって重要な新規参入クラブのひとつである。
- a4) 地元町内・選手支援ネットワーク：旧美作町の一部地区在住選手の生活を物心両面で支援している町民によって構成されている。当ネットワーク参加者は、選手を「生活指導・支援が必要な若い新住民」と捉えており、岡山湯郷ベルを彼女らの「職場」と考えている。
- a5) 温泉街ネットワーク：クラブ創設期から選手の職場提供という形で関わってきた温泉関係者によって構成されている。当ネットワーク参加者は、選手を「温泉街を華やかで元気にしてくれる若者」と捉えており、岡山湯郷ベルを「温泉街を活性化させる材料のひとつ」として捉え、その上で「支援すべきもの」と考えている。
- a6) スポンサー企業ネットワーク：クラブ創成期からクラブのスポンサーとして、財政的支援と選手

の職場提供という支援を続けている地域の企業関係者によって構成されている。当ネットワーク参加者は、岡山湯郷ベルを「地元を元気づけてくれる公共的な存在」であり「地元企業として支援すべきもの」と捉えた上で、支援策として選手を雇用し、彼女らを「同じ職場の同僚」と受け止めている。

b) 開放系ネットワーク

開放系ネットワークは、メールやインターネット（個人開設ホームページやブログ）による日常的・情動的相互作用を展開し、美作でのホームゲームを再会の場とするサポーターで構成されており、遠くは関東圏にまで広がっている。その中には、ホームスタジアムでの対面的な関係に発展した対面的ネットワークと、ネット上での関係を中心とする非対面的ネットワークが含まれている。

- b1) 対面的ネットワーク：岡山湯郷ベルの応援を契機につながり、ホームスタジアムと湯郷温泉地域を、友人との再会の場としている県内外の人によって構成されている。当ネットワークは推移性（友達の友達は友達）が高く、岡山湯郷ベル・ファンのネットワークのスマールワールド的性格が表れている。
- b2) 非対面的ネットワーク：メールやインターネットでのみつながっている県内外の人によって構成されている。2011年女子サッカーW杯に際する日本代表チームの美作市合宿および本大会優勝を契機に特定選手のファンになった者が多い。

地縁系ネットワークは、岡山湯郷ベルに対して固有の意味づけをする下位ネットワークを多様に内包していた。そして、各下位ネットワークの意味づけは参加者の地域生活や職場、あるいはクラブとの公式的關係性の文脈と密接に関連していた。そして、文脈を異にするネットワーク間のつながりは弱く、異なる複数のネットワークの参加者と生活空間を重複させていたり旧知の仲である個人（例えば、ID4, ID7, ID20）がいたりする場合、彼／彼女らが結節点になっている程度である。

一方、開放系ネットワークはインターネットをつなぐ「場」として成立しているため、共有しうる生活等の文脈はないようだが、選手やクラブに関する情報共有はスピーディーである。ID11は県外者でありながらも重要な情報発信源であるとともに開放系ネットワーク全域をつなぐ情報共有の結節点にもなっている^{注3}。そして、ID11はインターネット上のつながりをスタジアムにおける対面的な関係へと発展させる役割も担っている。ID11によって対面的ネットワークの参加者となったID8,

ID13 等は、インターネット上での友人関係の拡大と、それがスタジアムにおいて対面的な関係に発展していくことに価値を見出している。彼/彼女らは現在でも友人関係を広げており、開放系ネットワークは彼/彼女らのブログやホームページをゲートとして拡大し続けていくと推察される。そして、非対面的ネットワークは対面的ネットワークへと変容していく可能性がある。

2) 岡山湯郷ベルをめぐる他者関係と地域に対する意識との影響関係

調査の有効回答数は 332、有効回答率は 33.2%であった。20 代から 60 代までの実際の人口割合（20～60 代までの合計人口を母数とした割合）と調査回答者の割合を比較すると、調査回答者は実際よりも 20 代が少なく、60 代が多い傾向があったが、概ね実態を反映していると考えられる。（図 3 参照）

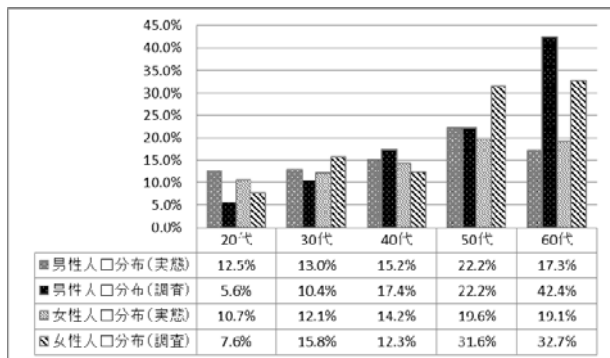


図 3 実際人口と調査回答者の分布比較

岡山湯郷ベルをめぐる他者関係は、ファンとの交流（2.28）を除いてすべての項目で 1 点台に留まっており、統計的に有意な差は認められなかったが、概ね 60 代で高い傾向にあった。（表 2 参照）

表 2 岡山湯郷ベルをめぐる他者関係

	ファンとの交流	FC会員との交流	ボランティアとの交流	チーム関係者との交流	協賛企業関係者との交流	ファン誌との交流	FC加入体験
20代	M 2.19 n 21 SD 1.167	M 1.90 n 21 SD 1.261	M 1.48 n 21 SD .981	M 1.62 n 21 SD 1.244	M 1.65 n 20 SD .988	M 1.19 n 21 SD .602	M 1.20 n 20 SD .523
30代	M 2.05 n 37 SD 1.079	M 1.57 n 37 SD .959	M 1.41 n 37 SD .832	M 1.32 n 37 SD .747	M 1.43 n 37 SD .801	M 1.24 n 37 SD .683	M 1.57 n 37 SD .867
40代	M 2.36 n 44 SD 1.228	M 1.77 n 44 SD 1.138	M 1.80 n 43 SD .558	M 1.34 n 44 SD .645	M 1.45 n 44 SD .901	M 1.23 n 43 SD .718	M 1.45 n 44 SD .730
50代	M 2.24 n 82 SD 1.272	M 1.65 n 81 SD 1.014	M 1.54 n 81 SD .949	M 1.57 n 81 SD 1.048	M 1.56 n 81 SD 1.037	M 1.30 n 81 SD .858	M 1.70 n 81 SD 1.134
60代	M 2.36 n 102 SD 1.384	M 1.93 n 102 SD 1.402	M 1.72 n 100 SD 1.264	M 1.67 n 102 SD 1.180	M 1.59 n 100 SD 1.173	M 1.50 n 101 SD 1.188	M 1.90 n 98 SD 1.343
合計	M 2.28 n 287 SD 1.273	M 1.78 n 285 SD 1.197	M 1.55 n 282 SD 1.023	M 1.54 n 285 SD 1.033	M 1.54 n 282 SD 1.033	M 1.35 n 282 SD .942	M 1.68 n 280 SD 1.112

幸福度は、3 点台前後であり、統計的に有意な差は認められなかったが、概ね 60 代で高い傾向にあった。（表 3 参照）

表 3 幸福度

		主観的幸福度	幸福度：暮らし	幸福度：地域とのつながり	幸福度：生きがい
20代	M	3.74	3.43	2.39	2.77
	n	19	18	19	19
	SD	1.046	.855	.988	.865
30代	M	3.58	3.37	2.75	2.74
	n	38	38	38	37
	SD	1.368	.947	1.081	.803
40代	M	3.49	3.48	3.12	2.96
	n	41	40	41	41
	SD	.952	.726	.746	.616
50代	M	3.49	3.35	2.81	2.86
	n	69	68	69	68
	SD	.901	.732	.764	.826
60代	M	3.71	3.60	3.11	3.02
	n	82	73	81	82
	SD	.936	.776	.915	.854
合計	M	3.59	3.46	2.92	2.91
	n	249	237	248	247
	SD	1.012	.792	.903	.805

地域に対する意識は、統計的に有意な差は認められなかったが、概ね 30 代で高い傾向にあった。（表 4 参照）

表 4 地域に対する意識

		生活圏の改善期待	生活圏に対する貢献意欲	美作市の改善期待	美作市に対する貢献意欲	美作市民としての誇り
20代	M	4.47	3.63	4.26	3.53	3.11
	n	19	19	19	19	19
	SD	.697	1.116	.991	1.349	1.197
30代	M	4.32	3.53	4.53	3.66	3.24
	n	38	38	38	38	38
	SD	.904	.951	.797	1.047	1.051
40代	M	4.12	3.51	4.39	3.61	2.98
	n	41	41	41	41	41
	SD	.954	.746	.737	.771	1.129
50代	M	4.03	3.51	4.26	3.70	3.09
	n	70	68	70	69	70
	SD	.868	.906	.774	.880	1.113
60代	M	3.89	3.52	4.15	3.46	3.22
	n	82	82	82	82	82
	SD	.956	1.033	.891	1.009	.861
合計	M	4.08	3.53	4.28	3.59	3.14
	n	250	248	250	249	250
	SD	.917	.943	.833	.972	1.032

岡山湯郷ベルをめぐる他者関係と幸福度・地域に対する意識に含まれる全項目間の相関関係は、多くの項目間で有意な相関が確認された。特に、岡山湯郷ベルをめぐる他者関係と幸福度に含まれるすべての項目間で有意な相関が認められた。（補足表参照）

この結果は、岡山湯郷ベルをめぐる他者関係と幸福度・地域に対する意識との間の影響関係を、相互の因果関係を想定して分析する必要があることを示している。また、独立変数間の多重共線性の存在が想定される。そこで、共線性の影響を排除するためにステップワイズ法による重回帰分析を行った。

岡山湯郷ベルをめぐる他者関係と地域に対する意識との間の重回帰分析を行った結果、相互に因果関係が確認できたものは相互依存関係にあると言

える。【ファンとの交流】(F(3,227)=12.20, $p \leq .001$, $R^2=.139$) と【地域とのつながり】(F(1,236)=19.75, $p \leq .001$, $R^2=.077$), 【美作市への貢献意欲】(F(1,236)=14.71, $p \leq .001$, $R^2=.111$), 【美作市民としての誇り】(F(3,236)=10.59, $p \leq .001$, $R^2=.119$) との間には相互依存関係が認められた。また【ボランティアとの交流】(F(1,225)=17.84, $p \leq .001$, $R^2=.073$) と【生きがい】(F(2,236)=13.28, $p \leq .001$, $R^2=.101$) との間、また【ファンクラブ加入動機】(F(2,225)=13.41, $p \leq .001$, $R^2=.106$) と【生きがい】(F(2,236)=13.28, $p \leq .001$, $R^2=.101$), 【美作市への貢献意欲】(F(1,236)=14.71, $p \leq .001$, $R^2=.111$) の間にも相互依存関係が認められた。(図4参照)

これらの結果は、地域におけるファンとの交流が活発になることと、地域における人と人のつながりが豊かになることや地域に対する意識がポジティブになることとが、相互に高め合う関係にあることを示している。同様に、ボランティアと交流することと生きがい、ファンクラブ加入動機と生きがい・美作市に対する貢献意欲とが高め合う関係にある。

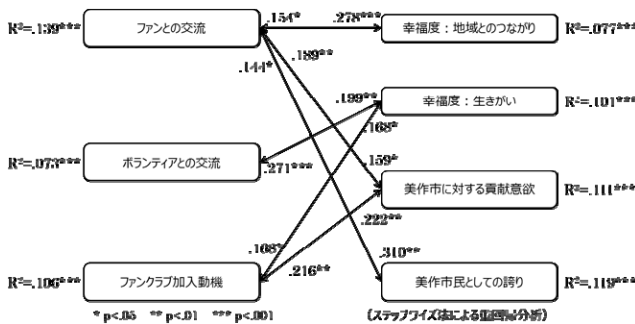


図4 岡山湯郷ベルをめぐる他者関係と地域に対する意識の相互依存関係

岡山湯郷ベルをめぐる他者関係を独立変数とし、地域に対する意識を従属変数とした重回帰分析を行った結果、【ボランティアとの交流】から【主観的幸福度】(F(1,236)=11.66, $p \leq .01$, $R^2=.047$), 【暮らしの豊かさ】(F(2,229)=9.84, $p \leq .01$, $R^2=.041$), 【ファンクラブ加入動機】から【生活圏に対する貢献意欲】(F(1,237)=15.41, $p \leq .001$, $R^2=.061$), 【美作市に対する改善期待】(F(1,238)=4.01, $p \leq .05$, $R^2=.017$), 【美作市民としての誇り】(F(3,236)=10.59, $p \leq .001$, $R^2=.119$) への統計的に有意な因果関係が確認された。(図5参照)

これらの結果は、ボランティアとの交流の活発化が主観的幸福度と暮らしの豊かさを高めること、ファンクラブ加入動機の高まりが生活圏に対する貢献意欲や美作市の改善期待、美作市民としての誇りを高めることを示している。

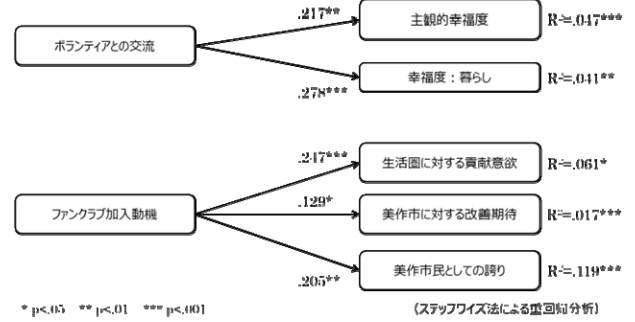


図5 岡山湯郷ベルをめぐる他者関係と地域に対する意識の因果関係

地域に対する意識を独立変数とし、岡山湯郷ベルをめぐる他者関係を従属変数とした重回帰分析を行った結果、【暮らしの豊かさ】から【ファンクラブ会員との交流】(F(2,226)=7.86, $p \leq .001$, $R^2=.065$) へ、【生きがい】から【協賛企業関係者との交流】(F(1,226)=5.90, $p \leq .05$, $R^2=.025$), 【ファン同士の交流】(F(2,225)=6.86, $p \leq .01$, $R^2=.057$) へ、【美作市に対する貢献意欲】から【ファンクラブ会員との交流】(F(2,226)=7.86, $p \leq .001$, $R^2=.065$), 【チーム関係者との交流】(F(1,227)=7.39, $p \leq .01$, $R^2=.032$) へ、【美作市民としての誇り】から【ファン同士の交流】(F(2,225)=6.86, $p \leq .01$, $R^2=.057$) への統計的に有意な因果関係が確認された。(図6参照)

これらの結果は、暮らしが豊かになることがファンクラブ会員との交流を豊かにすること、生きがいある生活を送ることが協賛企業関係者との交流やファン同士の交流を豊かにすること、美作市への貢献意欲の高まりがファンクラブ会員やチーム関係者との交流を豊かにすること、美作市民としての誇りの高まりがファン同士の交流を豊かにすることを表しているだろう。

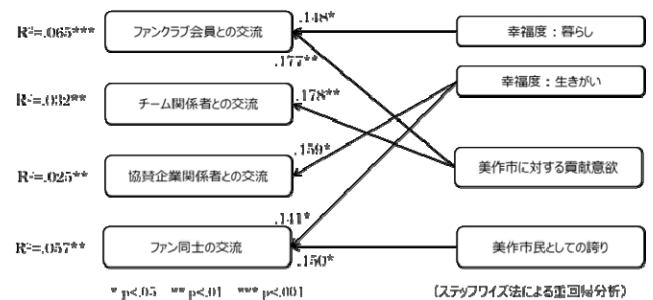


図6 地域に対する意識と岡山湯郷ベルをめぐる他者関係の因果関係

地域におけるファンとの交流の機会が、地域におけるつながりの豊かさや地域に対する意識がポジ

テーマ2
一般
奨励
スポーツとまちづくりに関する研究

ティブなものになることと互いに高め合う関係にあることや、ファンクラブ加入動機の高まりと生活における生きがいや地域への貢献意欲とが高め合う関係にあることは重要な発見であろう。

地域との関わりでプロ・スポーツが論じられるとき、プロ・スポーツから地域に何らかの効果がもたらされることが想定されてきた。しかし、本研究の結果から、地域生活の幸福度の向上や地域住民の地域に対する意識向上がプロ・スポーツをめぐる状況をより良くすると言えるだろう。地域における人と人のつながりや地域への意識は、「わが町」のスポーツをめぐる人と人のつながりの基盤であり、幸福度や地域への期待や貢献意欲は「わが町」のクラブへの帰属意識の基盤なのである。

なお、幸福度をめぐる結果を考察する上で、幸福度が性別（大竹,2004, 山田,2007）や年齢（Blanchflower = Oswald,2000）、健康（竹内ほか,2011, 豊田,2010）等の個人属性要因や、結婚や子どもの有無（白石・白石,2006, 山田,2007, Kristen=Ono,2008）、教育年数（Frey = Stutzer,2002, Chen,2011）、組織への属性（Helliwell=Barrington-Leigh,2010）等の社会属性要因、所得（筒井ほか,2005, Dynan = Ravina,2007）や消費と資産（松浦,2002）、雇用状況（大竹,2004）、業種（佐野・大竹,2007）等の経済的要因によって高くなるということが明らかになっていることは考慮しなければならない。幸福度と岡山湯郷ベルをめぐる他者関係との因果関係の背後に、個人属性や社会属性、経済的要因が関わっている可能性がある。本調査では3要因のいずれも分析対象になっておらず、今後更なる詳細な分析が必要である。

5. まとめ

本研究は、インタビューを通じて当事者の語りを収集し、その言葉（テキスト）から事象を理解する定性的方法と、操作化可能な概念を用いて仮説的分析枠組みを構築し、統計学的に検証する定量的方法を併用した。いずれの方法も、地域における人と人のつながり、今日的なテーマである「絆」という視点からプロ・クラブの地域内存在の有り様を理解するためのものであった。そこで以下では、2つの方法から明らかになったことを統合させて論じていくことにする。

プロ・クラブは地域内の各ネットワークにおける生活の文脈を基盤にして多様に意味づけられている。生活の文脈の固有性は、プロ・クラブに対する意味づけの固有性の基盤であり、ネットワーク内部のつながりの強化は、生活やクラブに関する文脈共

有の結果に他ならない。そして、文脈共有はさらなる交流を促進し、文脈共有は進む。その結果、他者とつながるといふ幸福度を高めたり、強固になったネットワークを関係資本として、より住みやすい地域にしようとしたりする意欲が高まっていくと考えられる。

このプロセスは、文脈共有（地域生活の文脈の共有ークラブへの意味づけの共有）ークラブをめぐる交流の活性化ー文脈共有ー幸福度・地域に対する意識の向上ー文脈共有・・・と続くスパイラルアップなものと想定できよう。そして、このプロセスモデルは、プロ・クラブが幸福度や地域に対する意識を向上をもたらすモデルとして提起できるだろう。

（図7参照）

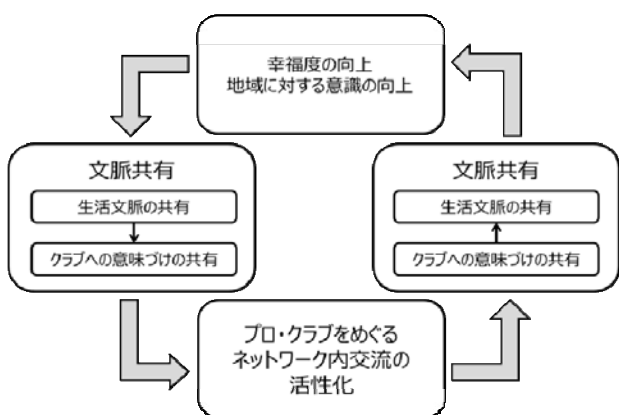


図7 プロ・クラブが地域活性化をもたらすスパイラルアップ・モデル

本研究は、人口約30,000人という中山間地をホームタウンとする特異的なクラブを対象とした単一事例研究である。よって、収集された知見を一般化することはできない。しかし、「プロ・スポーツが地域を活性化させる」という命題に対して、「地域生活の文脈を基盤にしてプロ・スポーツへの意味づけが共有できれば、社会的ネットワーク内のプロ・スポーツをめぐる交流は活性化し、プロ・スポーツへの意味づけはさらに共有化され、それに伴って地域生活の文脈も共有化が進む。そして、人と人のつながりは強固になり、つながることに由来する幸福度や貢献意欲が高まる」という一定の普遍性を持つシナリオが提示できたのではないだろうか。

単一事例を理解する研究は、一般化可能な知見を得ることはできない。しかし、普遍的なシナリオを提起することによって、スポーツ経営上の仮説を生み出せるだろう。シナリオ・メイキングという目的のために採用すべき方法は、認識論的差異を超えて、いかようにも考えうるはずである。むしろ、方法論的強みを活かし、弱みを補完し合うような方法併用が重要になってこよう。シナリオ・メイキングとし

ての事例研究を蓄積していく必要性と、定性的方法と定量的方法の効果的な併用の重要性を指摘して結語としたい。

注

注1 美作市は2005年3月31日に5町1村が合併して成立しており、生活者に旧町村に対する意識が残存していると想定した

注2 より詳細な操作化も可能だったが、美作市スポーツ振興課によるスポーツライフ調査という性格上、項目量に限界があると同時に、美作市のスポーツ振興を構想する上で効果的な項目にしなければいけないという事情があり、項目を厳選せざるを得なかった

注3 ID11の情報発信は、クラブ公式ホームページの情報発信力の低さへの不満が契機となっていた。そして、自らの情報発信に対する反応がID11の発信力維持を支えていた。

参考文献

- Blanchflower, D. G. and Oswald, A. J. (2000) Well-being over Time in Britain and the USA. *Journal of Public Economics*88 : 1359-1386
- Wan-chi Chen(2012)How Education Enhances Happiness: Comparison of Mediating Factors in Four East Asian Countries. *Social Indicators Research*106 : 117-131
- Karen E. Dynan and Enrichetta Ravina(2007) Increasing Income Inequality: External Habits, and Self-Reported Happiness. *The American Economic Review*97(2)226-231
- Frey, B. and A. Stutzer(2002)Happiness and Economics : How The Economy and Institutions Affect Well-being. Princeton University Press
- 古市勝也・ブストス・ナサリオ(2004)スポーツによるまちづくりの「経済効果」評価導入の背景と効果に関する一考察. *生涯学習研究センター紀要* 9 : 41-56
- John F. Helliwell and Christopher P. Barrington-Leigh(2010) Measuring and Understanding : Subjective Well-Being. *Canadian Journal of Economics*43(3) : 729-753
- J.ホルスタイン, J.グブリアム, 山田富秋ほか訳(2004)アクティブ・インタビューー相互行為としての社会調査ー. *せりか書房*
- 石坂圭三・間野義之(2010)プロスポーツチームの地域における経済的価値評価. *スポーツ産業学研究* 20(2) : 159-171
- Kristen Schultz Lee,Hiroshi Ono(2008) Speciali-

zation and Happiness U.S.-Japan Comparison. *Social Science Research*37(4) : 1216-1234

大竹文雄(2004)失業と幸福度. *日本労働研究雑誌* 528 : 59-68

松浦克己(2002)黄昏の幸せー高齢者の幸せ感を支えるものー. *郵政研究所ディスカッションペーパーシリーズ* 2002-02 : 1-31

宮本勝浩・韓池・田口順(2007)プロ野球産業の経済効果. *スポーツ産業学研究* 17(1) : 45-56

二宮浩彰(2010)プロスポーツ・ファンの地域愛着とスポーツ観戦者行動. *スポーツ産業学研究* 20(1) : 97-107

二宮浩彰(2011)プロスポーツ観戦者行動におけるチームに対する愛着とホームタウンへの地域愛着. *同志社スポーツ健康科学* 3 : 14-21

ロバート.D.パットナム, 柴内康文訳(2006)孤独なボウリングー米国コミュニティの崩壊と再生ー. *柏書房*

齋藤弘樹・川原晋(2012)地域におけるホームタウンスポーツの役割に関する研究: 東京都町田市のサッカーを事例として. *観光科学研究* 5 : 35-43

桜井厚(2002)インタビューの社会学ーライフヒストリーの聞き方ー. *せりか書房*

佐野晋平・大竹文雄(2007)労働と幸福度特集・仕事の中の幸福. *日本労働研究雑誌* 558 : 4-18

白石小百合, 白石賢(2007)少子化社会におけるワーク・ライフ・バランスと幸福感ー非線形パネルによる推定ー. *内閣府経済社会総合研究所 Discussion Paper Series*181 : 1-34

竹内香織・磯和勅子・福井享子(2011)地域高齢者における主観的幸福感に関連する社会活動要因. *三重看護学誌* 13 : 23-30

豊田尚吾(2010)幸福に必要な条件と年齢・性別. *季刊誌 CEL*94 : 36-43

筒井隆志(2012)スポーツによる地域活性化: 直接の効果と外部経済効果. *経済のプリズム* 102 : 1-20

筒井義郎・大竹文雄・池田新介(2009)なぜあなたは不幸なのか. *大阪大学経済学* 58(4) : 20-57

山田憂子(2007)「勝ち組・負け組」論の真実ーJGSS-2002 データにおける幸福感規定要因分析からの考察ー. *日本版 General Social Surveys 研究論文集* 6 : 159-167

この研究は笹川スポーツ研究助成を受けて実施したものです。